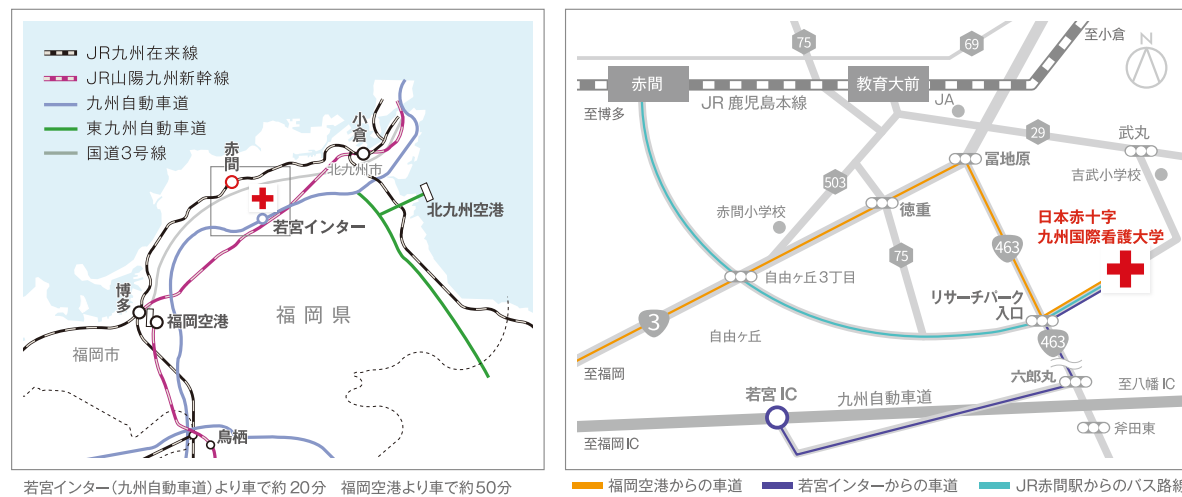


ACCESS

宗像市の郊外にある自然豊かなキャンパスは、
生命を尊び、慈しむことの大切さを学ぶにふさわしい
恵まれた環境にあります。



西鉄バス 赤間駅や天神から直行バスもあり、快適に通学できます。

天神日銀前から

直行バス
約 **70** min

JR 赤間駅南口から

直行バス
約 **15** min

「日赤看護大学行き」西鉄バスは、校内ゲート棟まで着きます。
授業の開始・終了に合わせて、天神から1日11便運行されています。
西鉄バス「天神日銀前」からの主な経由地
九州産業大学南口・庄(古賀市)・千鳥パークタウン・イオンモール福津前・王丸など

JR

JR 博多・小倉駅から

JR & バス
約 **50** min

JR博多・小倉駅から本校までのアクセス（JR&西鉄バスで約50分）

博多駅 約35分
小倉駅 約35分

赤間駅

バス 約15分

日本赤十字
九州国際看護大学

JR赤間駅までの所要時間の目安(快速) 福岡市内から通学する学生もたくさんいます。

吉塚	千早	香椎	福工大前	古賀	福岡	折尾	黒崎
約 31 min	約 27 min	約 25 min	約 20 min	約 16 min	約 10 min	約 13 min	約 18 min

ひとりを看る目、その目を世界へ



日本赤十字九州国際看護大学 大学院 看護学研究科



GUIDE BOOK 2021

JAPANESE RED CROSS KYUSHU
INTERNATIONAL COLLEGE OF NURSING
GRADUATE SCHOOL OF NURSING



日本赤十字九州国際看護大学 大学院看護学研究科

〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1丁目1番地 <https://www.jrckicn.ac.jp/>

TEL : 0940-35-7001 FAX : 0940-35-7021



JAPANESE RED CROSS KYUSHU INTERNATIONAL COLLEGE OF NURSING GRADUATE SCHOOL OF NURSING

HISTORY

日本赤十字九州国際看護大学は、学校法人日本赤十字学園の第4番目の看護学部看護学科として九州地区に開設されました。2007年4月に大学院を開設、2010年4月には大学院での助産教育を開始しました。更に、2016年4月には5つの赤十字看護大学との共同で、共同看護学専攻博士課程を開設しました。

沿革

- 2001年 4月 日本赤十字九州国際看護大学 開学
- 2006年 6月 大学院設置認可申請書を文部科学大臣に提出
- 2006年11月 文部科学大臣から大学院設置の認可を受ける
- 2007年 4月 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科 開設
- 2009年 3月 財団法人大学基準協会における大学評価の結果、大学基準に適合していると認定される
※認定期間は2016年3月31日まで
- 2009年 6月 大学院看護学研究科看護学専攻[助産師学校]指定申請書を文部科学大臣に提出、受理される
- 2009年10月 文部科学大臣から大学院看護学研究科看護学専攻(助産コース)開設の認可を受ける
- 2010年 4月 大学院看護学研究科看護学専攻(助産コース) 開設
- 2015年 3月 大学院共同看護学専攻 博士課程設置認可申請書を文部科学大臣に提出
- 2015年 8月 文部科学大臣から大学院共同看護学専攻 博士課程設置の認可を受ける
- 2016年 3月 公益財団法人大学基準協会における大学評価の結果、大学基準に適合していると認定される
※認定期間は2023年3月31日まで
- 2016年 4月 大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程 開設
- 2017年 4月 大学院看護学研究科看護学専攻(CNSコース) 開設
- 2018年 4月 大学院講義室・研究室 新設

■ CONTENT

P02	沿革	P10	研究論文発表会	P17	修了生コメント
P03	大学院の理念・目的	P11	授業科目一覧	P18	在校生コメント
P05	学長・研究科長メッセージ	P12	修士論文タイトル	P18	科目等履修生・お試し受講・入試相談会
P06	修士課程/特色・履修の流れ	P13	共同看護学専攻/博士課程	P19	施設紹介
P07	コース紹介	P15	サポート体制	P21	入試情報
P10	研究指導体制	P16	教育課程等の概要		

1 大学院の理念・目的

本大学院は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術の中心として、広く看護の実践と教育・研究に関する理論と専門技術を教授研究し、深い学識及び卓越した感性と人間性を備えた高度な看護専門職の育成を図り、看護学の発展とともに世界の人の健康と福祉の向上と豊かな生活の創造に寄与することを目的とする。

2 大学院の目的

- 1) 修士課程は、広い視野に立って深い学識を教授し、人間性を涵養するとともに、看護学における研究能力又は高度な専門性を必要とする看護職者としての高い能力を培うことを目的とする。
- 2) 後期3年博士課程は、看護学研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる幅広く豊かな学識を養うことを目的とする。

3 大学院の教育目標

赤十字の人道の理念を基調に、多様な健康ニーズを学際的に研究し、国内外の保健・医療・福祉に関連した社会的ニーズに対応する理論と技術を創出・実践する看護分野の専門家を育成することを教育目標とする。

入学者受け入れの方針

アドミッション・ポリシー

本学修士課程は、赤十字の人道の理念を基調に、多様な健康ニーズを学際的に研究し、国内外の保健・医療・福祉に関連した社会的ニーズに対応する理論と技術を創出・実践する看護分野の専門家を育成することを教育目標としています。このような教育目標の下、本学修士課程のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す教育を行っています。こうした教育を受けるための条件として、次に掲げる倫理観、基本的能力、態度を有する大学院生を求めます。

- ・ 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観を有する人
- ・ 基礎学力、専攻領域の基本的知識・思考力を身につけている人
- ・ 看護・保健専門職として研究する基礎的能力を有する人
- ・ 主体的に国内外の健康問題について学び、多職種と協働して社会に貢献する態度を有する人

教育課程の編成・実施方針

カリキュラム・ポリシー

本学修士課程は、その掲げる教育理念および教育目的・目標を達成するために研究・教育者を目指す「保健コース」と「看護コース」、高度実践看護師を目指す「CNSコース」、助産師国家試験受験資格取得を目指す「助産教育コース」を設置し、保健学・看護学の研究者、教育者、実践者の養成を目指しています。修士課程の教育目標を達成するために、ディプロマ・ポリシーに掲げた資質・能力の修得を目指し、コース別に、共通科目と専門科目を体系的に編成し、以下の方針（教育課程編成、学修方法・学修過程、学修成果の評価）に基づいた教育課程を展開します。カリキュラムの体系をわかりやすく示すために、学位取得までのプロセス、カリキュラムマップ、コースツリー、履修モデル、履修の流れを明示します。

教育課程編成

【修士（保健学）】保健コース

- 1) 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた保健専門職として課題を探究するために、学修の基盤となる共通科目を置いています。
- 2) 多様でグローバルな健康課題や保健医療システムを学際的な視点から捉え、各領域における専門性の発展・深化を目指すために専門科目を置いています。
- 3) 保健学の発展に貢献する研究に取り組むために、様々な研究方法を段階的・構造的に学べる研究科目を置いています。
- 4) 保健専門職として研究の成果を社会に還元するために特別研究を設定しています。
- 5) 研究者・教育者、高度実践看護師、助産師という多様な目的を有する学修者が領域を横断して学問を探究できるよう合同演習を置いています。

【修士（看護学）】看護コース、CNSコース、助産教育コース

- 1) 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた看護専門職として課題を探究するために、学修の基盤となる共通科目を置いています。
- 2) 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉え、各領域における専門性の発展・深化を目指すために専門科目を置いています。
- 3) 看護学の発展に貢献する研究に取り組むために、様々な研究方法を段階的・構造的に学べる研究科目を置いています。
- 4) 看護専門職として研究の成果を社会に還元するために特別研究または課題研究（CNSコースおよび助産教育コース）を設定しています。
- 5) 研究者・教育者、高度実践看護師、助産師という多様な目的を有する学修者が領域を横断して学問を探究できるよう合同演習を置いています。

「CNSコース」は、上記1～5に加えて、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

- 6) 卓越した看護実践能力を育成するために、それぞれの専門看護師資格認定に必要な科目を置いています。
- 7) 専門看護分野のケアの質改善に向けた課題を探究するために、文献クリティーク演習および課題研究を設定しています。

「助産教育コース」は、上記1～5に加えて、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

- 6) 妊娠・分娩・産褥・新生児期が安全に経過するための実践能力を育成するために、助産師国家試験受験資格取得に必要な科目を置いています。
- 7) 助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種と連携するための能力を育成する科目を置いています。
- 8) 人の一生における性と生殖をめぐる健康課題を分析し、健康・権利を守る援助を探究するために文献クリティーク演習および課題研究を設定しています。

学修方法・学修過程

- 1) コースワーク（科目の履修）とリサーチワーク（修士論文の作成）を計画的に進めていくことができるように、教育課程を編成し、実施します。入学時および学期初めに、研究指導教員は大学院生自身が履修計画を立案し、計画的に学修を進めていくことができるように履修指導を行い、学修を継続的に支援します。
- 2) ディプロマ・ポリシーに掲げた多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉え、保健・看護専門職として課題を探究するための能力を育成するために、学修の基盤となる科目（共通必修科目および共通選択科目）と、専門性の発展・進化を目指す科目（専門科目）を順序性や関連性を考慮して配置することによって、大学院生の目的に合わせて、多様な観点から学問を探究していくことができるようにしています。
- 3) 保健学・看護学の発展に貢献する研究に取り組む能力を育成するために、複数の研究科目を置き、科目間で連携を図りながら、基本から応用へと段階的、体系的に研究方法を学べるように授業を運営します。
- 4) 修士論文の作成に向けては、研究指導教員・研究指導補助教員による一貫した継続的な指導を行います。また、合同演習、研究計画発表会、研究中間報告会、修士論文発表会を段階的に設定することで、専門領域の垣根を超えた多角的な視点からの意見交換ができ、大学院生の自律的・学際的な研究活動の支援に繋がります。

学修成果の評価

- 1) 学修成果の評価は、科目の成績、修得単位数、修士論文、最終試験、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力評価によって行います。
- 2) 科目の成績は、シラバスに示す評価方法・割合に基づき、科目担当者がS～Dの5段階で評価します。
- 3) 修士論文の評価は、学生便覧に示す審査体制・審査基準・審査方法に基づき審査を行い、可否を判定します。
- 4) 最終試験は、学生便覧に示す評価基準・評価方法に基づき実施し、A～Dの4段階で評価します。
- 5) ディプロマ・ポリシーに掲げた能力評価については「修了時の能力を評価する指標」を用いて、修了時に自己評価および研究指導教員による他者評価を行い、4段階で達成度を評価します。また、中間期にも同指標を用いて自己評価および他者評価を実施し、結果をフィードバックすることで、ディプロマ・ポリシーの達成に向けた学修支援に繋がります。

修了認定・学位授与の方針

ディプロマ・ポリシー

本学修士課程に所定の期間在学し、研究科の修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文の審査および最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に修士の学位を授与します。

【修士（保健学）】

- 1) 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた保健専門職として課題を探究する能力を有している。
- 2) 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉える能力を有している。
- 3) 保健学の発展に貢献する研究に取り組む能力を有している。
- 4) 保健専門職として研究の成果を社会に還元する能力を有している。
- 5) 保健医療福祉に関連した社会的ニーズに的確に対応するために、多職種と協働し、保健専門職としての役割を発揮する能力を有している。
- 6) 国内外の保健医療システムの改善を提案できる能力を有している。

【修士（看護学）】

- 1) 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた看護専門職として課題を探究する能力を有している。
- 2) 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉える能力を有している。
- 3) 看護学の発展に貢献する研究に取り組む能力を有している。
- 4) 看護専門職として研究の成果を社会に還元する能力を有している。
- 5) 保健医療福祉に関連した社会的ニーズに的確に対応するために、多職種と協働し、看護専門職としての役割を発揮する能力を有している。

「CNSコース」は、上記1～5に加えて、以下の要件を求めます。

- 6) 専門看護分野において、卓越した看護実践能力を有している。
- 7) 専門看護分野において、ケアの質を評価し、ケアの質改善に向けた取り組みができる能力を有している。

「助産教育コース」は、上記1～5に加えて、以下の要件を求めます。

- 6) 人の一生における性と生殖をめぐる健康・権利を守る援助ができる能力を有している。
- 7) 妊娠・分娩・産褥・新生児期が安全に経過するように、根拠に基づいて助産ケアを実践できる能力を有している。
- 8) 助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種との連携ができる能力を有している



看護学専攻 修士課程

Graduate School of Nursing



世界規模の危機の中、
「ひとりを看る目、その目を世界へ」
今こそ、「一人一人の命と尊厳を守る看護」を
先導するあなたへ

日本赤十字九州国際看護大学 大学院
学長・研究科長 小松 浩子

日本赤十字九州国際看護大学は、2007年4月に大学院看護学研究科修士課程を開設、赤十字の人道の理念を基調としたカリキュラムにより、超高齢社会、グローバル社会における人々の多様な生活や価値観、健康ニーズに対応するための高度な看護を追求し、新たな知の創造を通して世界の人々の健康と福祉の向上に寄与する人材を育成してきました。また、2016年からは、赤十字5大学と共同で博士課程を開設し、5大学の教育・研究を融合し、看護学の「知の共同体」のもと、独創性が高く社会的意義のある研究に果敢にチャレンジする人材の育成に取り組んでいます。

今、世界規模で新型コロナウイルス感染症の猛威が広がる中、赤十字の人道理念のもとに創設された本研究科の使命は極めて大きいといえます。大学院での学びは、どのような状況にあっても「一人一人の命と尊厳を守る看護」を先導するリーダーとして必要な、論理的思考、難局を乗り越えるための判断力と実行力、倫理的判断や価値形成を目指して頂きたいと思います。本大学院における学びにより、いまだかつてない危機に直面している世界中の人々に看護を通じて尽力できる力と勇気を身につけて頂きたいと願っています。

世界が直面している危機は一人では乗り越えることはできません。不確実で目まぐるしく変化が起こる中、つながりを感じることで前に進む勇気や力を湧かすことができます。種々の制約を強いられる日々が続きますが、年代も経験も異なる大学院生が教員との学術交流を通じて、新たな自分を発見し、変化する力や未来を冷静に看る目を養い、これからの社会を切り拓くことにチャレンジして下さい。

修士 | 学位取得のための4つのコース、7つの専攻領域

コース	保健コース	看護コース			CNSコース		助産教育コース
学位	修士(保健学)	修士(看護学)					
領域	国際保健	生涯発達看護	広域看護	基盤看護	クリティカル ケア看護	在宅看護	助産教育
	・災害/国際協力 ・ヘルスプロ モーション	・成育看護 ・成人看護(慢性) ・老年看護	・クリティカルケア ・メンタルヘルス ケア ・在宅ケア	・看護管理 ・看護教育 ・看護倫理			

研究科修士課程の特色

研究方法を強化した共通科目

本学の共通科目の特色として、研究方法(研究方法総論)、研究方法A-I(量的研究方法の基礎)、研究方法B-I(質的研究方法の基礎)、研究方法A-II(量的研究方法)、研究方法B-II(質的研究方法)といった研究方法を学ぶ科目が多くあります。質的研究と量的研究に対するきめ細やかな指導を行い、大学院生の研究能力向上を支援します。

充実した研究環境

共同研究室には、大学院生一人ひとりが研究活動に専念できるように、専用のデスク、パソコン(SPSS搭載)が準備されています。また、全館Wi-Fi対応で、いつでもどこでもインターネットや文献収集に必要な医療系データベースに接続できます。一部のデータベースは、学外からのアクセスも可能です。なお、ラーニング・コモンズには、プロジェクター等の機材を配備し、研究発表の練習や他領域の大学院生とのディスカッションなど新たな協同学習の場も整えています。

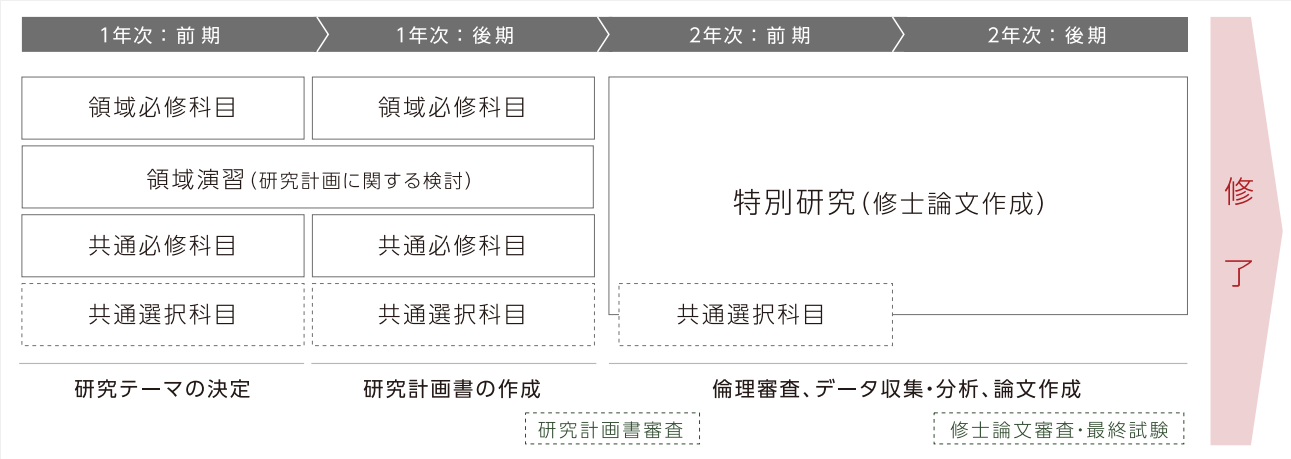
社会人への配慮

金曜日と土曜日に授業が(CNSコース除く)集中しているため、1年間で大半の科目履修ができます。2年目は、修士論文を作成するための多くの時間をとることができます。なお、大学院入学前に、本学大学院で科目等履修生として修得した単位は、大学院入学後の修得単位として10単位まで認められます。このように、社会人が働きながら本学で修士号を取得しやすいようにきめ細やかな対応をしています。

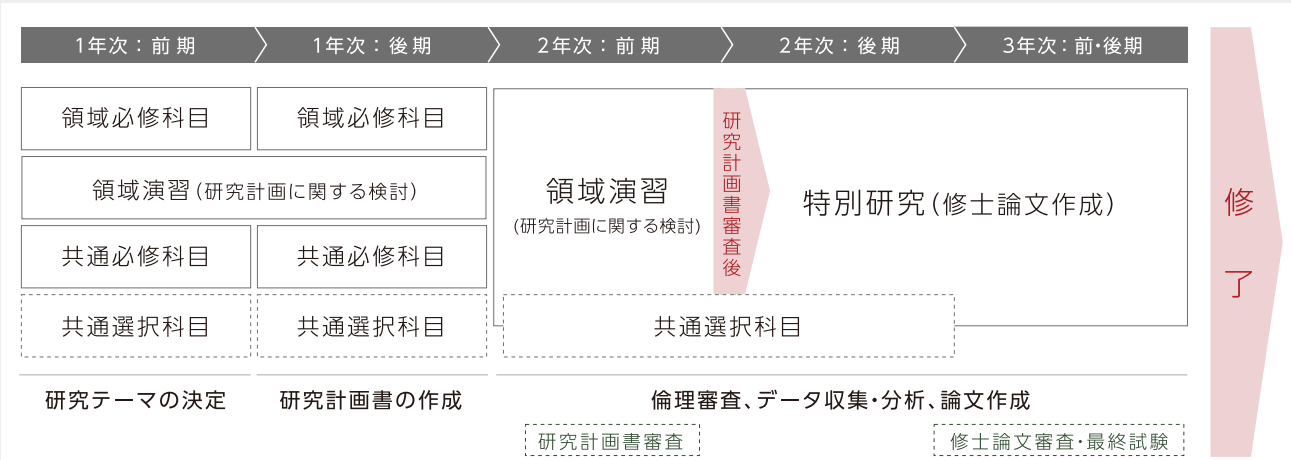
垣根を越えた指導体制

一つの領域は専門性豊かな複数の分野で構成されています。たとえば、成育看護、成人看護(慢性)、老年看護は独立した専門分野ですが、この3分野は生涯発達看護という領域に位置付けられています。一見、専門性が違う分野であっても、生涯発達という時間的経過でとらえなおすと対象の健康問題を包括的にとらえることができます。さらに、領域の垣根を越えた指導体制としては、研究方法(研究方法総論)を受講した大学院生は、領域の違いを越えて、論文をクリティークする方法を合同演習で学びあいます。

入学から修了までの履修の流れ ①標準課程



入学から修了までの履修の流れ ②長期履修課程



3年間で履修する課程です。職業を持っている人などは、ゆとりをもって着実に履修できます。1年次、もしくは2年次に研究計画書の審査を経て、3年次に修士論文の審査と最終試験に合格後、修士の学位が授与されます。長期履修制度は、入学時に申請が必要です。履修年限の短縮申請は、在学中1回のみ認められます。※長期履修制度を利用した場合においても、総納付金額は通常の2年コースと同額です。

保健コース

国際保健領域

健康は国際社会の共通の課題です。国内外での大規模な災害の多発、貧困、健康格差、高齢化の全世界的進行など、健康を脅かす要因は複雑・多様化しています。地域で暮らす人々が安全・安心かつ健康な生活を営むためには学問分野を統合した教育・研究が必要です。本領域では、災害・国際協力とヘルスプロモーションの分野が協働し、国際保健領域の課題を多角的・構造的に探究し、個人・集団の健康と生活支援の実践計画策定の指導を行います。もって、国内外を問わず個人・集団の健康と安全に貢献できる、高い専門性と実践力を備えた人材の育成をめざします。



分野	分野の特徴	担当教員
災害・国際協力	災害、貧困、健康格差などの問題は国内外を問わず頻発しており、人々の健康や生活に影響を及ぼしています。本分野では、このような問題を様々な観点から深く洞察し、看護の役割について探究します。	小川 里美 教授
ヘルスプロモーション	高齢化の世界的な進行は、個人の健康増進を集団的にサポートするヘルスプロモーションを必要としています。コミュニティを地域社会、職場など広くとらえ、一人ひとりのライフスタイルを考慮した健康生活支援について探究します。	守山 正樹 教授 緒方 文子 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

小川 里美 教授 <i>s-ogawa@jrckicn.ac.jp</i>	緒方 文子 准教授 <i>a-ogata@jrckicn.ac.jp</i>
---------------------------------------	--

- 国際協力における人材育成に関する研究
 - 紛争被災国における看護教育、看護政策に関する研究
 - 災害看護に関する研究
- 連続夜勤者の疲労・ストレス・眠気に関する研究
 - 労働者のメタボリックシンドローム発症に関する研究
 - アスベスト曝露者の不安に関する研究

看護コース

生涯発達看護領域

国際化を含む生活様式の多様化は人の一生に新たな課題を生じさせているため、そうした課題に取り組む人材の育成が必要です。本領域は、成育看護、成人看護（慢性）、老年看護の3つの分野で構成され、発達段階における特徴的な健康問題を専門的に探究するとともに、グローバルな保健分野の問題をも探究できる人材の育成をめざします。



分野	分野の特徴	担当教員
成育看護	子どもの成長・発達段階を踏まえて、子どもと親、家族、地域との関係をネットワークという視点を通して学びます。小児医療を取り巻く環境の変化および多職種連携についても最新の知見について探究します。助産師国家資格を取得後にも、性と生殖に関する発達課題を学び、その健康・権利を守る援助と親役割獲得のための支援について探究します。	大重 育美 教授 永松 美雪 教授
成人看護（慢性）	現代の健康問題の多くは慢性疾患との関連が深く、医療の進歩や高齢化によって問題は複雑化しています。予防からエンド・オブ・ライフケアまでの長期的視点および国内外の最新の知見に基づき、慢性期にある人の健康問題の本質と解決策を探究します。	中村 光江 教授 小松 浩子 学長
老年看護	国内外の諸理論を通して老年看護の場で生じる現象への理解を深め、生活モデルを通して老年看護の可能性や本質を探究します。また、高齢者やその家族が健康的で質の高い生活を送るための看護援助について探究します。	姫野 稔子 教授 原田 紀美枝 准教授 梶原 弘平 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

大重 育美 教授 <i>n-ooshige@jrckicn.ac.jp</i>	中村 光江 教授 <i>m-nakamura@jrckicn.ac.jp</i>
---	--

- 子育て、孫育てに関する研究
 - 子どもの事故防止に関する研究(子どもの姿勢、足型など)
 - 看護師・看護学生の疲労度・睡眠障害に関する研究
- 慢性病とともに生きる人への看護に関する研究(当事者経験の探究と理解、療養のための行動変容など)
 - 慢性病を持つ人へのエンド・オブ・ライフケアおよび緩和ケアに関する研究(倫理的課題、意思決定支援を含む)
 - 看護事例研究、看護の実践知に関する研究、ナラティブ・アプローチや現象学に基づく看護現象の記述方法の探求

永松 美雪 教授 <i>m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp</i>	姫野 稔子 教授 <i>t-himeno@jrckicn.ac.jp</i>
---	--

- 親子関係、育児支援、虐待予防に関する研究
 - 男女間暴力・性暴力被害に関する研究
 - 望まない妊娠・性感染症に関する研究
- 高齢者ケアに関する研究(ケア介入プログラムの開発、介入効果の評価・測定など)
 - End-of-Life Care、ターミナルケア、終末期ケアに関する研究
 - 看護用具・介護用具の効果の測定・評価

看護コース

広域看護領域

誰でもが遭遇しうる多様な健康の課題を、クリティカルケア、メンタルヘルスケアおよび在宅ケアという異なった切り口から探究し、今後の課題に対して、専門的かつグローバルに関与できる人材の育成をめざします。本領域は、クリティカルケア、メンタルヘルスケア、在宅ケアの3つの分野から構成されます。



分野	分野の特徴	担当教員
クリティカルケア	クリティカルな状況にある患者やその家族に対する看護について、国内外の知見の系統的分析と、関連する諸理論や概念を用い、クリティカルケアの専門性について探究します。	
メンタルヘルスケア	施設内外を問わず、健康問題を抱える対象者やケアを提供する看護師のメンタルヘルスに関する課題解決を探究します。グローバル化時代に対応するための新たな看護支援を探究します。	高橋 清美 教授 石飛 マリコ 准教授
在宅ケア	在宅ケアを取り巻く社会的な背景や政策的な方針を踏まえた上で、在宅ケアにおける課題について探究します。また、活用できる概念や諸理論、研究動向から在宅看護の専門性について探究します。	西村 和美 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

高橋 清美 教授 <i>k-takahashi@jrckicn.ac.jp</i>	西村 和美 准教授 <i>k-nishimura@jrckicn.ac.jp</i>
---	--

- 精神障がい者の食支援に関する研究
 - 気分障害への支援に関する研究
 - 地域で暮らす精神障がい者への支援に関する研究
- 在宅での排泄ケア(外来看護を含む)に関する研究
 - 在宅難病療養者支援(家族支援を含む)に関する研究
 - 在宅におけるエンドオブライフ・ケアに関する研究

看護コース

基盤看護領域

現在、グローバル化した世界では、ものや情報は激しく交流し、人のライフスタイルも激変しています。また、医療技術も著しく進歩していますが<人を見る>という看護の本質は不変です。本領域では、このような社会の変化を視野に入れて、時代に応じた質の高い看護を個人・組織・専門職集団レベルで提供していくために必須となる組織マネジメントや看護政策、人材育成の方法論、看護倫理について、多角的、専門的に探究します。本領域は、看護管理、看護教育、看護倫理の3つの分野から構成され、看護実践の基盤構築に貢献できる看護実践者・看護教育者・看護管理者の育成をめざします。



分野	分野の特徴	担当教員
看護管理	看護管理の中核的役割を担う人材を育成するために、医療・看護提供システムや看護政策、組織マネジメントに関する諸理論、方法論を探究します。また、マネジメント上の課題を多角的に分析することで、課題解決に向けた方策を探究します。	倉岡 有美子 教授
看護教育	看護基礎教育・看護継続教育を担う人材を育成するために、看護専門職実践の特徴を踏まえた人材開発の諸理論・方法論を探究します。また、これらの知見をもとに教育・学習活動の実践例を考察し、課題解決に向けた方策を探究します。	本田 多美枝 教授 阿部 オリエ 准教授
看護倫理	さまざまな看護の場で、個々人の立場・背景による価値の違いによって倫理的問題(ジレンマ、課題等)が生じています。自らの感受性を高めながら、諸理論や分析方法を通して問題の本質と解決策を探究していきます。	柳井 圭子 教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

倉岡 有美子 教授 <i>y-kuraoka@jrckicn.ac.jp</i>	本田 多美枝 教授 <i>t-honda@jrckicn.ac.jp</i>
--	--

- 看護管理者の能力開発に関する研究(経験学習やコンピテンシーを基盤としたアプローチなど)
 - 看護組織の変革、看護管理者のリーダーシップに関する研究
 - 看護管理と倫理に関する研究(高齢者の胃瘻造設に関する意思決定支援を含む)
- 看護職の人材開発に関する研究(看護学生、新人からベテランまでの各期の特性に応じた生涯学習支援、教育方法の開発など)
 - リフレクション、ナラティブアプローチなどを活用した看護職の実践力開発・熟達化に関する研究
 - 看護・看護教育の現象解明・概念化に向けた研究

阿部 オリエ 准教授 <i>o-abe@jrckicn.ac.jp</i>	柳井 圭子 教授 <i>k-yanai@jrckicn.ac.jp</i>
---------------------------------------	---------------------------------------

- 臨床実習の場における、学生への教育方法・指導に関する研究
 - 看護継続教育における人材育成に関する研究
 - 看護・看護教育の現象解明に向けた研究
- 看護に関する法制度研究(看護師の責任論、実務拡大への戦略的取り組み等)
 - 看護の倫理的問題に関する研究(生・性から死に至る倫理的葛藤と倫理的課題克服)
 - 暴力・虐待等の防止に向けた看護実践に関する研究

助産教育コース 助産教育領域

社会的要請に対応できる助産師としての専門的基礎的能力に加え、幅広い視野と科学的洞察力を持った、新たな助産のあり方を探究できる人材の育成を目指します。また、専門的知識の習得とともに母子保健分野における課題探究能力を備えた専門職および研究者を育成します。さらに国内外を問わず、女性および母子の健康問題に対して多角的な視点で考えることのできる資質を涵養します。



領域	領域の特徴	担当教員
助産教育	人の一生における性と生殖をめぐる健康・権利を守る援助を探究します。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期における根拠に基づく助産ケアを学びます。さらに、助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種との連携を目指します。必要な科目を履修し、単位を修得することで、助産師国家試験受験資格が得られます。	永松 美雪 教授 石山 さゆり 准教授

研究指導テーマ ※出願を希望する方は、出願前に志望する専攻領域の教員にメールでご連絡ください。

永松 美雪 教授 <i>m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp</i>	石山 さゆり 准教授 <i>s-ishiyama@jrckicn.ac.jp</i>
・親子関係、育児支援、虐待予防に関する研究 ・男女間暴力・性暴力被害に関する研究 ・望まない妊娠・性感染症に関する研究	・カオス・複雑系の視点を用いた看護に関する研究 ・胎児期からのこどもの発達に関する研究 ・親子関係の発達に関する研究

CNSコース クリティカルケア看護領域

本大学院は、「クリティカルケア看護」の専門看護分野について、日本看護系大学協議会から高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程 38単位）として認定されています。本コースでは、保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有する患者にケアとキュアを統合し、卓越した直接的ケアを提供するとともに、相談、調整、倫理調整、教育、研究を行い、ケアシステム全体を改善することで、看護実践を向上させる高度実践看護師の育成をめざします。

領域	領域の特徴
クリティカルケア看護	本領域は、クリティカルケア看護専門看護師の育成をめざします。クリティカルケア看護専門看護師は、対象のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキュアの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものです。その役割は、専門性を基盤とした高度な実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整です。また、総合的な判断力と組織的な問題解決力をもってクリティカルケア看護領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能します。

CNSコース 在宅看護領域

本大学院は、「在宅看護」の専門看護分野について、日本看護系大学協議会から高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程 38単位）として認定されています。本コースでは、保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有する患者にケアとキュアを統合し、卓越した直接的ケアを提供するとともに、相談、調整、倫理調整、教育、研究を行い、ケアシステム全体を改善することで、看護実践を向上させる高度実践看護師の育成をめざします。

領域	領域の特徴
在宅看護	本領域は、在宅看護専門看護師の育成をめざします。在宅看護専門看護師は、対象のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキュアの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供するものです。その役割は、専門性を基盤とした高度な実践、看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整です。また、総合的な判断力と組織的な問題解決力をもって在宅看護領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず教育や政策への課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能します。



研究指導体制

研究指導は、1名の研究指導教員と1名以上の研究指導補助教員の計2名以上で行います。研究指導教員と研究指導補助教員は、修士論文の作成に至るまで一貫した研究指導を行います。

本大学院での研究指導においては、総合研究指導体制を採用しています。これは、大学院生の研究指導において専門分野の主たる指導教員に加えて、領域を横断して研究指導を受けることができる体制をいいます。これにより、大学院生は、専門領域の研究をすすめながら、領域を超えた視点や論点から、自分の研究を検討し、さらなる進展を図ることが可能になります。

リベラルアーツ・専門基礎教員／研究テーマ

鈴木 清史 教授
・看護と保健医療をめぐる文化人類学的研究
高瀬 文広 教授
・医療関係者を対象とした対人コミュニケーションや異文化コミュニケーションの研究



研究論文発表会

❖ 修士論文発表会

令和2年2月28日(金)



修士論文を提出した11名の大学院生が、研究の成果を発表し、集まった教員・院生が熱心に耳を傾けていました。大学院生は、助産師国家試験受験資格取得や仕事との両立というそれぞれの使命を全うしながら、標準課程あるいは長期履修課程という時間的制約のなかで、課題研究や特別研究に取り組んできました。その成果は社会的にも学術的にも貢献し得る価値あるものとなっていました。質疑応答では、多くの教員から研究内容を問う質問だけでなく、今後の学会発表や投稿等の公表に向けたアドバイスもあり、とても有意義な発表会となりました。

❖ 研究計画発表会

令和2年2月21日(金)



大学院に入学してから約1年過ぎた大学院生の、研究内容についての研究計画発表会が実施されました。短い時間の中で、各領域の指導教員の指導を受けながら、研究計画書を作成・発表することができました。発表終了後の質疑応答では、多くの教員から内容についての質問や今後の研究活動に対するアドバイスがあり大学院生にとって貴重な経験となりました。

授業科目一覧

区 分		授 業 科 目	単位数	時間数	履修方法 及び 修了要件①	履修方法及び修了要件②				履修年次及び単位数							
						保健・看護コース		CNSコース		助産教育コース		1年次		2年次			
						必修	選択	必修	選択	必修	選択	①	②	③	④		
専 門 科 目	保 健 コース	国際保健 ○ 災害・国際協力 ○ ヘルスプロモーション	国際保健特論Ⅰ ※	2	30	●	○					2					
			国際保健特論Ⅱ	2	30	●							2				
			演習（国際保健）	4	120	●						4					
			特別研究（国際保健）	4	120	●								4			
	看 護 コース	生涯発達看護 ○ 成育看護 ○ 成人看護（慢性） ○ 老年看護	生涯発達看護特論Ⅰ ※	2	30	●	○					2					
			生涯発達看護特論Ⅱ	2	30	●							2				
			演習（生涯発達看護）	4	120	●						4					
			特別研究（生涯発達看護）	4	120	●								4			
	CNSコース	広域看護 ○ クリティカルケア ○ メンタルヘルスケア ○ 在宅ケア	広域看護特論Ⅰ ※	2	30	●	○					2					
			広域看護特論Ⅱ	2	30	●							2				
			演習（広域看護）	4	120	●						4					
			特別研究（広域看護）	4	120	●								4			
	CNSコース	基盤看護 ○ 看護管理 ○ 看護教育 ○ 看護倫理	基盤看護特論Ⅰ ※	2	30	●	○					2					
			基盤看護特論Ⅱ	2	30	●							2				
			演習（基盤看護）	4	120	●						4					
			特別研究（基盤看護）	4	120	●								4			
	CNSコース	クリティカルケア看護	クリティカルケア看護特論Ⅰ	2	30							2					
			クリティカルケア看護特論Ⅱ	2	30							●		2			
			クリティカルケア看護特論Ⅲ	2	30							●			2		
			クリティカルケア看護演習Ⅰ	2	60							●			2		
クリティカルケア看護演習Ⅱ			2	60	●								2				
クリティカルケア看護演習Ⅲ			2	60	●								2				
クリティカルケア看護演習Ⅳ			2	60	●								2				
クリティカルケア看護実習Ⅰ			5	225	●										5		
在宅看護		クリティカルケア看護実習Ⅱ	5	225	●										5		
		在宅看護学特論Ⅰ	2	30	●								2				
		在宅看護学特論Ⅱ	2	30	●								2				
		在宅看護学特論Ⅲ	2	30	●								2				
		在宅看護学特論Ⅳ	2	30	●									2			
		在宅看護学特論Ⅴ	2	30	●									2			
		在宅看護学演習Ⅰ	2	60	●								2				
		在宅看護学演習Ⅱ	2	60	●								2				
CNSコース	在宅看護学実習Ⅰ	2	90	●			2										
	在宅看護学実習Ⅱ	3	135	●					3								
	在宅看護学実習Ⅲ	3	135	●					3								
	在宅看護学実習Ⅳ	2	90	●					2								
	専 門 科 目	助産教育コース	助産学総論	1	30							1					
			ウィメンズヘルスⅠ	1	15							●			1		
			ウィメンズヘルスⅡ	2	30							●				2	
			リプロダクティブ・ヘルス	2	30							●		2			
女性のフィジカルアセスメント			1	15	●								1				
妊娠期のアセスメントとケア			2	30	●								2				
分娩期のアセスメントとケア			2	30	●								2				
産褥期・新生児のアセスメントとケア			2	30	●								2				
周産期学（正常編）			1	15	●								1				
周産期学（異常編）			1	15	●								1				
新生児学			2	30	●								2				
助産と薬理			1	15	●									1			
地域母子保健			1	15	●									1			
助産経営管理学			2	30	●									2			
フィールドワーク演習			2	30	●								2				
助産基礎実習			8	360	●									8			
助産所実習	2	90	●		1		1										
新生児集中ケア基礎実習	1	45	●				1										
共 通 科 目			保健・看護総合特論	1	15	●				○		1					
			看護理論	2	30	●			○			2					
			看護倫理	1	15	●			○	●			1				
			グローバルヘルス	1	15	●					○	1					
			専門外国語講読Ⅰ	1	15	●					○	1					
			研究方法（研究方法総論）	2	30	●		●		●		2					
			研究方法A-I（量的研究方法の基礎）	1	15		○				○		1				
			研究方法B-I（質的研究方法の基礎）	1	15		○				○		1				
			研究方法A-II（量的研究方法）	1	15		○				○		1				
			研究方法B-II（質的研究方法）	1	15		○				○		1				
			看護教育論	2	30		○		○		○	2					
			看護管理論	2	30		○		○		○	2					
			看護政策論	1	15		○		○		○		1				
			専門外国語講読Ⅱ	2	30		○				○			2			
			フィジカルアセスメント特論	2	30		○	●			○	2					
			病態生理学特論	2	30		○	●			○	2					
			臨床薬理	2	30		○	●			○		2				
			コンサルテーションⅠ	1	15		○		○		○		1				
			コンサルテーションⅡ	1	15		○		○		○			1			
			専門実習Ⅰ	2	90		○			●		2					
			専門実習Ⅱ	2	90		○			●				2			
			文献クリティーク演習	2	60			●		●		2					
			課題研究	2	60			●		●		1			2		
計					[保健コース]30単位以上 [看護コース]30単位以上 [CNSコース]42単位以上 [助産教育コース]58単位以上		※保健コース・看護コースにおいて、各領域の特論Ⅰは、当該領域の大学院生がいない場合は、開講しません。										

修士論文タイトル一覧

令和1(2019)年度

- 新生児期の特別養子縁組における教育入院での養親と養子の愛着形成のための看護職者の支援
- わが国における個性のある母乳育児ケアに関する文献研究
- 生殖補助医療と分娩の両方を行う施設で妊娠・出産した女性が受けた支援と体験
- 成人前期における情報活用の実践力がHIV感染予防に関する技能に及ぼす影響
- 夫婦で不妊治療を受けた男性が抱く思いと医療従事者に求める対応　－不妊治療中から児出生までに焦点を当てて－
- NICUに入院した低出生体重児を持つ父親の面会時の思いと医療従事者へ求める支援
- 熊本地震発生後1週間以内における被災者の心理状態　－新聞記事を用いた質的記述的分析－
- 急性期病院においてヒヤリ・ハットを複数回経験した新人看護師への看護師長の関わり
- 最大歩行速度に関連する下肢筋肉への運動プログラムによる効果の検討　－高齢者の歩行能力、バランス能力、日常生活活動の変化－
- ドミニカ共和国公立病院で看護スタッフが副業をもちながら働くことに対する看護師長の認識と対応
- 看護職妊婦の妊婦エンパワメントの変化　－助産師チームによるアクションリサーチを通して－

平成30(2018)年度

- 転職した看護師が語るキャリアアップについての研究
- 対象に応じたバースレビューの有益性と課題に関する文献研究
- 熊本地震の急性期において初めて避難所での支援活動を行った一助産師の事例報告
- 反復人工妊娠中絶のケアに対する助産師の思いの変化
- 妊娠期から育児期の摂食障害を持つ女性とその周囲の人々の特徴に関する文献研究
- 在宅療養中の慢性呼吸不全患者におけるセルフマネジメント支援に関する文献研究
- フライトナースの専門職連携実践能力の実態
- 新卒小児看護師が勤務継続の原動力を獲得していく体験の様相
- 看護系大学生における自己調整学習方略の実態と学年及び自己効力感、内発的価値との関連

平成29(2017)年度

- 幼児をもつ父親の子育ての体験
- 帝王切開出産から約1年以上が経過した女性の出産経験
- 共働き多子世帯における父親の育児家事と家族への思いの変化
- 父親の発達に関連する要因　－3歳～12歳の障がい児の親を対象として－
- 介護老人福祉施設で働く看護師のオンコール勤務状況と蓄積的疲労との関連
- 重症心身障害児(者)病棟の中堅看護師が行う臨床判断とその特徴
- 急性期病院で行われる認知症高齢者の院内小集団ケアに携わる看護師に生じた変化
- 回復期機能をもつ内科系病棟の中堅看護師による患者・家族への退院支援
- ALS療養者が自宅で最期まで生き抜くための診断初期からの地域の看護職の支援の在り様
- 高齢統合失調症入院患者の低栄養の要因　－低栄養群と非低栄養群との比較研究－
- 青年海外協力隊（Japan Overseas Cooperation Volunteers）への参加を節目として経験した看護職のキャリアデザイン
- 臨地実習において実習指導者が自らの看護実践を看護系大学生に語ることの意味
- 臨床における看護師の倫理的感受性の育成

平成28(2016)年度

- 中期中絶ケアに複数回携わった助産師の体験と変化
- 超低出生体重児を出産した母親が児のNICU入院中に看護職者に求める支援
- HTLV-1キャリアの母親が児への栄養方法を選択し行った体験
- 母乳栄養から人工栄養に変更した母親の体験
- 救急医療の終末期ケアにおける救急看護認定看護師の実践で生じるジレンマへの対処
- 中堅看護師のキャリア開発に対する看護師長の認識と支援
- 精神科救急病棟の新人看護師が緊迫と感じた体験とその意味づけ
- 学生の主体的な学習を支援する上での新任助手の戸惑いと対処のプロセス　－看護系大学の新任助手に焦点をあてて－
- 30代及び40代の男性労働者におけるストレス反応と余暇活動の関連
- 中堅看護師が抱いたキャリア停滞感から抜け出した体験

共同看護学専攻 博士課程

Graduate School of Nursing

あらゆる
看護現象へ
アプローチできる
研究者・実践者の
養成をめざす

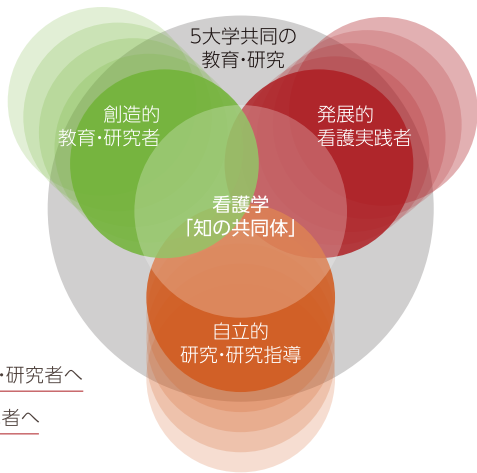
5つの大学は
看護学の
「知の共同体」

高い専門性で社会貢献

理論や実践方法の創造ができる教育・研究者へ

自立した研究・研究指導ができる研究者へ

発展的に看護を実践できる実践者へ



共同看護学専攻(博士課程)の特色・教育理念等

特色

- 学位は、共同教育課程を構成する5大学の連名により、授与されます。
- 学生は、主指導教員が在籍する大学に学籍を置くことになります。
- 学生は、5大学の施設等を利用することができます。
- 学生は、学籍を置く大学以外の大学の副指導教員からも、研究指導が受けられます。
- テレコミュニケーションを利用した遠隔授業により、各大学で開講する講義を、学籍を置く大学から受講することができます。

学位

博士(看護学)

教育理念

赤十字の理念である「人道(humanity)」の実現を目指し、いかなる場合でも一人ひとりの尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現することを共通の理念としています。さらに、高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育ができる教育者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる人材の育成を目指します。

教育目標

共同看護学専攻では、次のような能力を養うことを目標とします。

- 1) 研究者として、自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力を養う。
- 2) 知的な教養と柔軟性、先見性を兼ね備え、質の高い看護学の教育を行うための教育開発能力、教育能力、課題解決能力を養う。
- 3) 臨床看護実践や教育の場において、リーダーとして活動するための俯瞰力と指導・調整力を養う。
- 4) 国内外の保健・医療・福祉の分野で広く活躍できる能力を養う。

教員紹介

本田 多美枝教授

0940-35-7037

t-honda@jrckicn.ac.jp

キャリア各期の特性に応じた人材開発の方法、リフレクションを活用した看護職の実践力開発の方法論、熟達化に関する看護モデル開発に焦点を当てた研究指導を行います。



高橋 清美教授

0940-35-7502

k-takahashi@jrckicn.ac.jp

精神障がい者の支援に関する研究、地域における精神疾患に関する課題に焦点を当てた研究指導を行います。



姫野 稔子教授

0940-35-7026

t-himeno@jrckicn.ac.jp

老年期にある対象者の倫理的問題、看護介入の効果の測定ならびに看護介入モデルの開発に関する研究指導を行います。



永松 美雪教授

0940-35-7072

m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題に関連する要因の分析や予防モデルの開発に焦点を当てた研究指導を行います。



3年間の教育・研究スケジュール

※長期履修制度あり

	1年次	2年次	3年次		1年次	2年次	3年次
前期	4月	入学式 ガイダンス 主研究指導教員決定	ガイダンス 前期授業開始 研究計画書 提出①		10月	後期授業開始 合同研究ゼミナール 副研究指導教員決定	後期授業開始
	5月	合同ガイダンス 前期授業開始			11月		博士論文・審査願 提出②
	6月		研究計画書 提出②		12月		博士論文 提出②
	7月	前期授業終了	前期授業終了		1月	後期授業終了	後期授業終了
	8月				2月		
	9月		研究計画書 提出③		3月		博士論文発表会 学位記授与式
後期							

育成する人材

5大学が共同し教育を行うことで教育の内部質保証・向上を図りながら、次のような人材を養成します。

- 1) 質の高い看護学の教育および研究指導ができ、それぞれの地域で活躍する人材
- 2) 自立して研究活動を行うに必要な子殿研究能力および基礎となる豊かな学識を備え、看護学分野の研究をリードでき、それぞれの地域の看護研究・看護教育のリーダーとなる人材
- 3) 医療施設等の臨床において看護の質を管理し、継続教育を実践でき、それぞれの地域の看護実践・看護教育のリーダーとなる人材
- 4) 看護実践に対する理論の構築、看護方法論の開発・創造ができ、看護実践のリーダーとなる人材
- 5) 国内外の保健・医療・福祉の分野で創造的な活動ができ、それぞれの地域で保健・医療・福祉分野のリーダーとなる人材
- 6) 未知なる健康課題の発生に対して迅速・的確に対応し、その成果を社会に還元できる人材
- 7) 国内外における災害救護・災害看護を実践するための有用な理論構築ができ、国内外で人道的任務果たせる人材

アドミッション・ポリシー

共同看護学専攻では、赤十字の理念である「人道(humanity)」のもとに、いかなる場合でも個人の尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現する人材の育成を目指すため、入学者選抜試験を実施し、次のような資質と能力、意欲をもった人材を幅広く求めています。

- 1) 保健・医療・福祉の専門知識を有し、さらに深く追求する意欲のある人
- 2) 常に探求心をもち、赤十字の看護活動を担う意欲のある人
- 3) 自らの活動範囲を拡げ、看護を発展させる意欲のある人
- 4) さまざまな分野の専門家とともに、独創的な研究を志す人
- 5) 社会での実践から得た知識と経験を体系化し変革する意欲のある人
- 6) 国際的な視座で、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- 7) 真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性をもつ指導者を志す人

出願を希望する方は、出願前に研究指導を希望する教員と面談し、入学後の研究・学修活動について相談を行う必要があります。まず、事前面談の予約を行う必要がありますので、研究指導を希望する教員までご連絡ください。

大学院でのサポート体制

教育方法

本共同看護学専攻では、対面での集合教育および個人指導の教育方法に加えて、日本赤十字学園専用のひかり回線で結ぶ遠隔教育システムを活用した特徴的な教育方法を用います。同システムの品質の高い映像・音声によって、通常の対面授業とほぼ同様なリアルタイムの双方向授業が5大学間で可能となります。学生の皆さんに、5大学の強みを活かした教育の場を設定するとともに、移動にかかる身体的・経済的な負担を軽減できるように努めています。

また、社会人学生の受け入れに関しては、長期履修制度を設けたり、夜間開講などの時間割の配慮を行います。

遠隔授業のイメージ

日本赤十字学園専用の遠隔教育システム（ハイビジョン画像・高音質・双方向・リアルタイム）で、5大学の担当教員から同時に多様な教育・研究指導を受けられます。例えば、九州に在籍していても、遠隔授業で北海道の講義を受けることができます。

もちろん、直接、北海道で受講することも可能です。



長期履修制度

職業を有しているなどの事情で標準の修業年限（3年）では修了することが困難となる者を対象に、長期（4年）にわたり計画的に教育課程の履修を認める制度です。その場合は、授業料等の支払い方法が変更になります。

詳細は大学院学生募集要項をご参照ください。

教育方法の特例

共同看護学専攻では、実務経験を有する有識者などの社会人を受け入れる場合の教育上の配慮として、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)による教育を実施しています。適用が認められた場合には、以下の①～③の履修指導及び研究指導の方法を実施することができます。適用を希望する者は、事前面接の際に、研究指導を希望する教員に申し出てください。

- ① 授業は、基本的に夜間及び土曜日に開講します。長期休業期間などに開講し、単位修得のための便宜を図ります。
- ② 研究指導及び論文作成指導も上記と同様に便宜を図ります。必要に応じ、多様なメディアを利用して指導します。
- ③ 授業科目、履修方法、履修指導、研究指導、修了要件等は、一般学生と同様です。履修計画の指導にあたり、講義・演習・研究指導等については、必要な場合、集中的に開講します。

教育課程等の概要

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数		授業形態	
				必修	選択	講義	演習
共通科目	看護理論	1・2前	日本赤十字豊田看護大学	1	○		
	赤十字人道援助論	1・2後	日本赤十字秋田看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅰ(実験研究)	1・2前	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅱ(臨床介入研究)	1・2後	日本赤十字北海道看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅲ(尺度開発)	1・2前	日本赤十字北海道看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅳ(質的研究)	1・2後	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅴ(文化人類学的研究)	1・2前	日本赤十字九州国際看護大学	1	○		
	科学的研究方法論Ⅵ(理論構築)	1・2後	日本赤十字北海道看護大学	1	○		
	臨床倫理論	1・2後	日本赤十字九州国際看護大学 日本赤十字北海道看護大学	1	○		
小計(9科目)		—		0	9	—	
専門科目	看護人材開発特論	1・2前	日本赤十字九州国際看護大学 日本赤十字豊田看護大学	2	○		
	実践看護学特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学 日本赤十字豊田看護大学	2	○		
	療養生活看護学特論	1・2前	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2	○		
	生涯発達看護学特論	1・2前	日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2	○		
	広域連携看護学特論	1・2前	—	2	○		
	災害救護特論	1・2前	日本赤十字広島看護大学	2	○		
	健康科学特論	1・2前	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字豊田看護大学	2	○		
	小計(7科目)	—		0	14	—	
演習	看護学演習	1通	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	2			○
	小計(1科目)	—		2	0	—	
合同研究ゼミナール	合同研究ゼミナール	1後	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	1			○
	小計(1科目)	—		1	0	—	
特別研究	特別研究	2～3通	日本赤十字北海道看護大学 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字豊田看護大学 日本赤十字広島看護大学 日本赤十字九州国際看護大学	8			○
	小計(1科目)	—		8	0	—	
合計（19科目）		—		11	23	—	

標準課程修了までの履修の流れ

1年次

- 共通科目※2科目2単位以上(選択)
看護理論
赤十字人道援助論
臨床倫理論
科学的研究方法論Ⅰ(実験研究)
科学的研究方法論Ⅱ(臨床介入研究)
科学的研究方法論Ⅲ(尺度開発)
科学的研究方法論Ⅳ(質的研究)
科学的研究方法論Ⅴ(文化人類学的研究)
科学的研究方法論Ⅵ(理論構築)
- 専門科目※1科目2単位以上(選択)
看護人材開発特論
実践看護学特論
療養生活看護学特論
生涯発達看護学特論
広域連携看護学特論
災害救護特論
健康科学特論
- 演習※必修2単位
看護学演習
- 合同研究ゼミナール※必修1単位

2・3年次

- 特別研究※必修8単位
- 研究計画書審査
- 研究倫理審査
- 学位論文審査

博士学位論文の研究発表会

修了要件

標準修業年限(3年)以上在学し、次の所定単位を修得するとともに、必要な研究指導を受け、かつ博士学位論文を提出し、博士学位論文審査と最終試験に合格しなければならない。

以下の①から⑤を満たし15単位以上

- ① 共通科目のいずれか2科目2単位以上
- ② 専門科目から1科目2単位以上
- ③ 「看護学演習」を2単位
- ④ 「合同研究ゼミナール」を1単位
- ⑤ 「特別研究」を8単位

大学院で学ぶこと ～修了生のコメント～



森 明日香
2020年3月 修了
助産教育コース（助産教育）

私の財産

大学院での時間は、無我夢中で走り続けた生活で、瞬間に卒業を迎えました。大学院では何度も大きな壁にぶつかりましたが、最も難航したのが研究活動です。研究を進めるにあたり、関係団体へコンタクトをとるために県外へも足を運びました。しかし、論文のまとめに入っても、自分の知りたい、深めたいと思う内容と実際得られる情報のギャップに悩み、論文の内容に納得がいかず、苦悩する日々が続きました。

そのような時、先生方からの助言、学友の言葉がけは大きな支えとなり、無事に研究を終えることができました。大学院生活で得た貴重な知識や体験は、これからの助産師として歩いていく私の財産となりました。



貞清 翔子
2020年3月 修了
助産教育コース（助産教育）

大学院での実習と研究を通しての学び

私は、本大学院の助産教育コースに進学し、2年間で助産の実習や研究活動を通して、たくさんの学びを得ることができました。助産の実習では、新しい命の誕生に携わる責任と、一緒に様々な課題を乗り越えていくという、助産師としてやりがいのある責務を学ぶことができました。研究活動では、インタビュー調査を行い、インタビューに応じてくださった方々の熱い思いを文章として、正確に記述することの難しさ

と責任を学ぶことができました。

これらの学びは、私の助産師人生において、とても貴重な経験になるであろうと、卒業した今、そう感じています。今後は、大学院での学びを忘れることなく、立派な助産師となるように頑張っていきます。



加部 彩香
2020年3月 修了
助産教育コース（助産教育）

新しい自分を発見できる

私は本学を卒業後、慣れ親しんだ環境で学びたいと思い本大学院に進学しました。大学院での授業は、プレゼンテーションや多領域の学生や先生方とのディスカッションを通して、様々な考えに触れることで、自主的に学習することが求められました。そのため、学会や地域で行われている学習会等に参加し、学びを深めました。

研究と助産実習、助産師国家試験の勉強の同時進

行は大変でしたが、熱心に指導いただいた先生方や共に学修した院生の支えがあり乗り越えることができました。



阿部 オリエ
2020年3月 修了
共同看護学専攻（博士課程）

「俯瞰」の重要性

私は、看護系大学生の臨床判断のスキルを伸ばしたいと教員に成り立ての10数年前からファンワリと考えていました。そのファンワリが祟ってか、博士課程においての探究は、困難の連続でした。越えたと思ったら山がまた立ちはだかり、山をよじ登っているつもりだったのに、河底めがけて落下していると感じたこともありました。状況を打破したいと模索していたところに、「俯瞰」というスキルを身に着けました。

山の先にある世界を上から眺めてみる。そうすると、それまで立ちはだかっていた山しか見えなかったのに、山の先にある見たことのない景色が視界に飛び込んできた気がしました。博士課程とは、自分自身で学ぶところです。要求される能力は、やり続ける力です。継続は力なり。これからも、「俯瞰」しながら探究を続けていきたいと思います。

大学院で学ぶこと ～在校生のコメント～

大学院で学ぶことができることに感謝

吉村 季実子
看護コース
生涯発達看護 成人看護（慢性）

私が看護専門学校卒業後、19年の病院勤務を経て、本学へ進学したきっかけとなったのは、本学大学院を卒業した上司からの刺激を受け、臨床で湧き起った疑問に向きあい、研究に取り組みたい思いと、本学で現在指導してくださっている先生からの誘いです。

20年ぶりの学生生活に対する期待から、仕事と学生生活をうまく両立できているように思っていたましたが、徐々にプレゼンテーション、レポート、さらに研究計画書のための文献検索などに追われ、日々の課題をこなすことに精一杯でした。しかし年齢や性別、経験も様々な同期とともに支えあいながら1年を終えることができました。指導教員の先生方の熱く根気強いご指導もあり、研究への第一歩を踏み出したばかりですが、引き続き頑張りたいと思います。社会人である自分がまた学べることに、職場の上司、同僚や家族に感謝しています。

探求する心をもって学ぶこと

稲吉 麻衣子
看護コース
生涯発達看護 老年看護

私は本学の学部を卒業後、内科・精神科のある老年看護の場で働いており、人生の終末期にある高齢者の最期にかかわる経験をしてきました。最期をどう迎えるのか、意思疎通困難な患者の思い、日々の患者家族とのかかわりを通して「寄り添う」とは何か改めて考えるようになりました。臨床を経験し感じたジレンマや葛藤を一度振り返るため、本学の修士課程に進学を決意しました。現在は長期履修制度を利用し、仕事と学業を両立し遂行していく日々です。学部との違い、看護とは何か探求し、自主性を求められる場であることを日々痛感しています。大学院では他分野や経験年数の異なる学友と出会える貴重な場となり、新たな看護に対する思考の発見、自身の看護を理論や根拠を元に振り返ることができま

す。本学で学ぶ魅力の1つに熱心で親身な専門領域の先生方による指導体制の充実が挙げられます。研究を行っていく上で先生方の存在は大きく、支えとなっています。大学院で学が上で周囲の支えや協力があることを忘れず、大学院で学べる楽しさに感謝し、残された大学院生活の中で自己と向き合う機会を大切にしていきたいと考えています。

刺激や発見に満ちた毎日

石橋 慶子
助産教育コース
助産教育

私は、他大学を卒業後、助産師を目指し本大学院に進学しました。入学当初は、慣れない環境や学部とは違う学修スタイルの中、多くの課題に追われ一つ一つをこなしていくことに精一杯でした。しかし、同時に新しいことへの挑戦が楽しくもありました。1年次は、助産領域の専門的な知識や技術を学びながら、プレゼンテーションやディスカッション等を通して、研究テーマを明確にすることができました。また、臨床未経験の私にとって、同じく院生の現役ナースとともに授業を受け、様々な考え方や知識に触れることは、新たな気付きや発見に満ちていました。

今後も、同じ助産師を目指す仲間と支え合い、他の院生や先生方との関わりを通して実りの多い学生生活を送りたいと思っています。

励まし合える仲間と共に 憧れの助産師を目指して

山根 麻美
助産教育コース
助産教育

私は本学の学部を卒業後、同大学院へ進学しました。経験豊富な先生方のもと、少人数制(助産領域5名)で同じ助産師を目指す仲間と共に支え合いながらじっくりと学べる学修環境が整っています。専門科目では科学的根拠に基づく助産ケアを丁寧に学びます。1年後期の助産実習では、分娩介助を含め合計13組の産婦・家族の貴重な時間に携わらせていただきました。十人十色のお産を通して、助産師として対象者に安全な助産ケアを提供していく重要性を実感すると共に、母子の経過一つひとつが鮮明に思い浮かぶほどかけがえのない経験・学びを得ることができました。残りの大学院生活、本格化する研究や国家試験の準備等ありますが、周りの人や環境への感謝の気持ちを忘れず、一つひとつしっかりと乗り越えていきたいと考えています。

INFO 01 科目等履修生



本学の学生以外の方（本学卒業生を含む）が、本学（大学院）が開講している授業科目（一部の科目を除く）を当該年度に限り履修する制度です。履修した授業科目の試験に合格すると、10単位を上限に、単位が与えられます。科目等履修生になるためには所定の選考を経て、入学が許可されます。
※詳細はHPにてご確認ください。

INFO 02 お試し受講



本学の学生以外の方（本学卒業生を含む）が、本学（大学院）が開講している授業科目（一部の科目を除く）を体験受講する制度です。希望する専攻領域の講義をお試し受講してみませんか？
※入試広報課までお問い合わせいただくか、HPにてご確認ください。

INFO 03 入試相談会

2020年度 実施予定日

第1回 7/19 [SUN.]
第2回 8/9 [SUN.]



オープンキャンパスでは入試相談会を実施します。本学大学院に関する質問に個別で相談に応じます。

オープンキャンパスに限らず、随時大学院入試等に関する相談を受け付けています。
問い合わせ先：0940-35-7008(入試広報課)

※状況により日程等が変更となる場合があります。詳細はホームページをご確認ください。



修士課程 大学院生室



大学院専用フロア

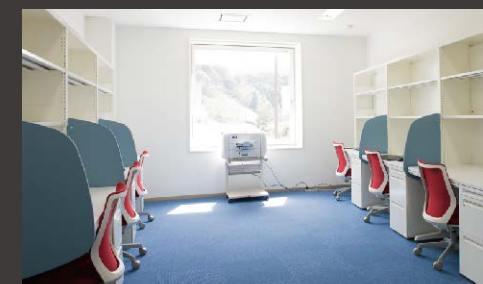
大学院講義室・研究室は、使いやすい専用フロアを設けました。
明るく広い研究室は、一人ひとりが研究活動に専念できるように、専用のデスク・パソコンを完備、十分な収納スペースが確保されています。



講義室A



コミュニケーションスペース



博士課程 大学院生室



施設紹介

図書館

専門知識の修得や最新情報の入手をサポートする図書館。大学正面のゲート棟に位置し、約6万2千冊が所蔵可能な、明るく機能的なスペースです。
医療・看護系の図書は約6割を占め、専門の知識を深く探求することができます。
赤十字に関連した図書および報告書を備えた赤十字コーナーや、災害看護・人道科学関連の図書を備えた特別コレクションコーナーのほか、看護の周辺分野である社会科学や心理学等の図書も充実しています。
新着図書コーナーでは、新しく受け入れた図書や学内行事に関連した図書を展示しています。
館内には20台のパソコンを備えており、すべてインターネットに接続しています。視聴覚機器も備え、機能面での充実を図っています。



授業風景



実習室



ラーニング・コモンズ



オーヴァルホール



アスティショップ



レストランアスティ

看護学専攻（修士課程）

入学者募集詳細

募集定員 10 名

取得学位 修士(看護学) または 修士(保健学)

修業年数 2 年(長期履修課程の場合は3年)

募集専攻領域

コース「学位」	専攻領域(分野)
①保健コース「修士(保健学)」	国際保健(災害・国際協力、ヘルスプロモーション)
②看護コース「修士(看護学)」	生涯発達看護(成育看護、成人看護(慢性)、老年看護)
	広域看護(クリティカルケア、メンタルヘルスケア、在宅ケア)
	基盤看護(看護管理、看護教育、看護倫理)
③CNSコース「修士(看護学)」	クリティカルケア看護、在宅看護
④助産教育コース「修士(看護学)」	助産教育

入学試験概要

試験区分	I 期	II 期
出願期間	令和2年7月30日(木)～8月7日(金)※当日消印有効	令和2年12月17日(木)～令和3年1月4日(月)※当日消印有効
試験日	令和2年9月4日(金)	令和3年1月23日(土)
試験場所	日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市アステイ1丁目1番地)	
選抜方法	学力検査・面接、および書類審査等を総合して行います。	
出願資格	※各入試(一般入試・社会人入試・社会人推薦入試)方法により異なります。詳細は大学院募集要項をご参照ください。	
合格発表	令和2年9月11日(金)	令和3年1月29日(金)
入学申込手続期間	令和2年9月14日(月)～9月25日(金)	令和3年2月1日(月)～2月12日(金)
入学手続締切日	令和3年3月5日(金)	
入学検定料	30,000円	

授業料

種類	金額					摘要
	標準課程		長期履修課程			
	1年目	2年目	1年目	2年目	3年目	
入学金	300,000円		300,000円			入学金の免除制度あり※
授業料	800,000円	800,000円	800,000円	400,000円	400,000円	年額 前期4月中 後期10月中
維持運営費	200,000円	200,000円	200,000円	100,000円	100,000円	年額 前期4月中 後期10月中
実験実習費(助産教育・CNS)	200,000円	200,000円	200,000円	100,000円	100,000円	年額 前期4月中 後期10月中

※入学金免除制度の詳細は、大学院募集要項をご参照ください。

奨学金(修士課程・博士課程)

奨学金は、人物・学業ともに優秀な学生が、経済的理由により就学が困難と認められる場合に、学資として貸与または給付される制度です。本学で現在取り扱っている奨学金は次のとおりです。

① 日本赤十字九州国際看護大学上田奨学金 1名上限100万円※

② 一般財団法人 日本赤十字社看護師同方会奨学資金 総額100万円

※日本赤十字九州国際看護大学上田奨学金は3名以内。希望者複数の場合、貸与額調整。

共同看護学専攻（博士課程）

入学者募集詳細

募集定員 2 名

取得学位 博士(看護学)

修業年数 3 年(長期履修課程の場合は4年)



入学試験概要

試験区分	I 期	II 期
出願期間	令和2年7月30日(木)～8月7日(金)※当日消印有効	令和2年12月17日(木)～令和3年1月4日(月)※当日消印有効
試験日	令和2年9月4日(金)	令和3年1月23日(土)
試験場所	日本赤十字九州国際看護大学(福岡県宗像市アステイ1丁目1番地)	
選抜方法	学力検査・面接、および書類審査等を総合して行います。	
出願資格	※修士の学位を有していなくても出願資格の審査を受け認定されれば受験できます。詳細は大学院募集要項をご参照ください。	
合格発表	令和2年9月11日(金)	令和3年1月29日(金)
入学申込手続期間	令和2年9月14日(月)～9月25日(金)	令和3年2月1日(月)～2月12日(金)
入学手続締切日	令和3年3月5日(金)	
入学検定料	30,000円	

授業料

種類	金額							摘要
	標準課程			長期履修課程				
	1年目	2年目	3年目	1年目	2年目	3年目	4年目	
入学金	400,000円			400,000円				入学申込手続時※
授業料	800,000円	800,000円	800,000円	600,000円	600,000円	600,000円	600,000円	年額 前期4月中 後期10月中
維持運営費	300,000円	300,000円	300,000円	180,000円	240,000円	240,000円	240,000円	年額 前期4月中 後期10月中

※日本赤十字学園の赤十字6看護大学卒業生・修了生は入学金が免除されます。

③ 独立行政法人 日本学生支援機構奨学金 第一種・第二種

④ 国際看護師協会東京大会記念奨学金 年間180万円以内

⑤ 高橋美智大学院教育(看護管理)奨学金 総額60万円※給付

⑥ 小倉一春大学院教育(国際看護)奨学金 年間60万円※給付

○応募には、いろいろな応募資格や条件があります。詳細は学務課に確認してください。